

Music

ハワイアンロックのベテラン、
ヘンリー・カポノの『Dukes on Sunday』

Text & Photo: George Cockle
文・写真/ジョージ・カックル



ハワイに行くと、絶対やること。それは朝早くからモアナ・サーフライダーへ行って、ブレイクファストを食べること。それもビュフェじゃなくて、エッグス・ベネディクトをアラカルトで頼む。永遠に注いでくれるコーヒーも一緒にね。そしてひとりだったら、新聞を読む(もちろん英字。実は日本語はあまり読めないんだ)。こうやって一日をスタートすると、すごくリッチな気分になれる(泊まってなくてもね)。ゆったりと朝の時間を過ごしたあとは、ワイキキのビーチボーイの小屋に行って、彼らからできるだけバカでっかいソフトボードを2時間借りて波乗りをする。ひとしきり遊んでサンセットの時間になったら、もう一度モアナ・サーフライダーに戻り、大きなバナヤンツリーの下で、ハワイアン音楽に耳を傾ける。ポチャッと太っているフラダンサー達の緩やかな踊りを見ながら、傘が刺さっているトロピカルドリンクを飲むのが大好きだ。毎回、何杯も飲むけど、順番は決まっている。最初はちょっとラムが効き過ぎたマイタイ。その後は甘いココナッツの味のピニャ・コラーダ、それから

グラスのリムに塩がたっぷり付いたマルガリータ。お次は、くだらなさ過ぎて酔いが回らないと頼めない、竹製の孫の手が刺さったトロピカル・イッチ。直訳するとトロピカルのかゆみだが、実はもう一つ、トロピカルなところに行きたいと言う意味もある。

でも日曜はモアナ・サーフライダーには行かない。日曜はモアナからダイヤモンドヘッド側にちょっと行ったアウトリガーホテルにあるレストランバーのデュークスに行く。ここも毎日観光客でいっぱいだ。デュークスのキャッチフレーズはOn The Sand in Waikiki(ワイキキの砂浜にある)だ。名前はハワイのサーフレジェンド、デューク・カハナモクからとったという。昨年20周年を迎え、デュークスはハワイのトラディションになった。日曜のサンセットタイムには、たいていヘンリー・カポノのライブがある。この雑誌の読者なら、きっと彼のことは知っているだろう。70年代に活動していたシシリオ・アンド・カポノのカポノの方だ。彼はハワイアンロックのベテランで、デュークスでは何年もこの時間にライブをやっ

てきた。だから日曜日になると、ローカルもたくさん音楽を聴きに来る。「デュークス・オン・サンデー」という曲もあるぐらいだ。ゲストも誰が登場するかわからない。この曲をカバーしているジミー・バフェットが飛び入りすることもある。もしハワイに行ったら、日曜日にデュークスへ足を運んでみたらどうだろう。このアルバム『Home In The Islands』は、ヘンリーが2012年にリリースしたものだ。デュークスに行けば聞けると思う。

とはいえ、俺は一昨年ハワイに行ったとき、このライブを見に行くために2日間、旅を伸ばしたが、残念ながら、この週だけヘンリー・カポノはツアーに出ていていなかった。もうがっかりだった。まるで波のないサーフトリップみたいな感じだった。この気持ち、わかってくれるよね(笑)?



ジョージ・カックル ● 60~70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴40年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com